
ときどきまじめな水姫の詩集

水の星の愚かな姫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ときどきまじめな水姫の詩集

【Nコード】

N4357Y

【作者名】

水の星の愚かな姫

【あらすじ】

一話完結の詩集です。

自分の考えみたいな物を書いているのでよろしくお願いします。

「頑張れ」

「頑張れ」

何気ない一言が胸に突き刺さる

「頑張れ」

頑張ってるよ。

とは言えず言葉を飲み込むだけ

「頑張れ」

うるさいな。

「うつつうしいな」「しょうがないな」「まあいつか」「も
ういいや」

僕の本音はどれだろう？

どうしたらいいか分からない？

僕は誰？

答えも何も分からないから

僕はただただ突き進む

答えを探す時間が勿体無いから

僕はこのまま突き進む

それでいいのかは分からないけれど

ただただ僕は突き進む

悩んで、立ち止まってしまっても

また歩みだせばいい

明日には笑えるように。

「注射針」(前書き)

毎日更新目指します！

「注射針」

注射を怖がるあの子

怯えて針を見る視線

「こわいこわいこわいこわい」

高い声で呟く可愛いあの子

守ってあげたくなるのは、なぜだろう。

抱きしめてあげたくなるのは、なぜだろう。

注射を終えて騒ぐあの子

楽しそうにお喋りをする可愛いあの子

「そっだねー」

楽しそうに男に笑いかけるあの子

こんなに胸が苦しいのはなぜだろう。

そう、あの子の事が大好きだからだ。

僕はあの子が大好き

あの子は…？あの子は僕の事が好き？

僕にはあの子が必要

あの子は…？あの子には僕が必要？

「君かつこいー」

あの子は僕を見ていない？

こんなに好きなのに…愛しているのに…

あの子は誰を見ている？

なぜ ボクヲ ミナイ？

何かに怯えるあの子

一点にそそがれる視線

「いやあああああああああああああ

高い声で叫ぶ可愛いあの子

君はもう僕しか見ない

君はもう他の誰も見ない

僕が、僕だけが……

なのに、こんなに虚しいのはなぜだろう

この感情はなんだろう

真っ赤に染まった可愛いあの子

もう、僕の大好きな笑顔で笑わない

目を閉じたまま……

ナゼ メヲ トジテイル？

ナゼ ボクヲ ミナイ？

「うわあああああああああああああああああああああ」

真っ赤に染まった自分の手

聞こえてくる車の音

世界が壊れていく

目の前が暗くなる

暗闇の中で、僕は…

「變じてるよ……」

君の事が スキ、ナンダ

「注射針」(後書き)

怖いですね。解釈は自由にしてください。

あ、この話は今日、注射してる時に思いつきました。

「私は世界で何番目？」

あなたにとって世界で私は何番目？

何番目に可愛いでしょ

何番目に優しいでしょ

何番目に面白いでしょ

何番目に大切でしょ

100番目とか言わないで

ショックで3日寝込み

10番目とか言わないで

中途半端でへこみます

1番目とか言わないで

嘘じゃないかと疑います

1番目も、10番目も、100番目も嫌

めんどくさい私です

何番目なら良いのでしょうか

「何番なんて決められない」

なんて言われたら

嬉しすぎて空飛びます

「軍手の次ぐらいかな？」

なんて言われたら

悲しすぎて遺書書きます

めんどくさい私です

だってだって、あなたの事が好きなんだもん

めんどくさい私です

だってだって、傷つきたくないんだもん

さてさて期待して聞きます

『私は世界で何番目？』

「私は世界で何番目？」（後書き）

友達とのメールの中でこういう話が出てきたので書きました。

「れずびあん」

私はれずなの？

あの子を見てるとドキドキする

私はれずなの？

あの子が他の子と話すと嫉妬する

あの子は皆の人気者

「好きー」とか平気で言うような子

私の物じゃないのに

なんだかとてもイライラする

だから私は君に言うの

「大好きー」

冗談半分、本気半分で言った言葉

返ってきた言葉は

「私も大好きだよー」

君の『好き』と私の『好き』は違うのかもしれないけど

私はねえなの？

違おうと願いたい

なのに、胸が苦しい

君は鈍感だね、私の気持ちに気づかないなんて

君を独りじめしたい

だから私は君に言うの

「君は私の物だよ」

冗談半分、本気半分で言った言葉

返ってきた言葉は

「私は私の物だよー」

君の言う通りだよ、君は誰の物でもない。

私の物でも……ないんだ

私は君と、この微妙な関係を保ちたい。

思いを伝えて、嫌われるのが怖いから……。

「れずびあん」(後書き)

学校で、れずという噂が立っている二人を思いだしたので書いてみました。

「つんでれ教師」

「アンタ達のために勉強教えるんじゃないんだからねっ！」

今日もツンデレ、皆のアイドル田中先生

体育祭の時も

「別に勝ってほしいとか思わないんだからねっ！」

文化祭の時も

「別に感動なんて…頑張ったなんて思わないんだからねっ！」

今日もツンデレ、明日もツンデレ

皆のアイドル田中先生

転入生が来た時も

ツンツンデレデレ田中先生

「が、学校生活楽しんでなんて思わないんだからねっ！」

転入生が困ってる

「喧嘩…？すればいいのよ、それで怪我すればいいの！」

そんな事を言いながら、バンソーコーを持つてる田中先生

「熱がある？馬鹿は風邪ひかないって言うのにね！」

そんな事を言いながら、氷や体温計を持ってくる田中先生

今日も明日もつつんつんでれでれ

デレもいいけどツンもいい

皆のアイドル田中先生

「だ、大好き……一回しか言わないんだからねっ！！！」

皆のアイドル田中先生

「つんでれ教師」(後書き)

色々今日の出来事を混ぜて見ました

「腹黒少女」

誰かと誰かが喧嘩した

ごめん正直どうでもいい

だけどニツコリ笑って「どうしたの？」

当然愚痴を聞かされる

ごめん正直鬱陶しい

だけど顔をしかめて「うわうっざ」

あの子に言われた「チクるよ」と

あらあら大変最悪だ

だけど落ち着いて…あること無いこと吹き込むの

だけど落ち着いて…最善の手を先につつの

さてさて私の腹黒さ

正直みんな引くと思つよ

めんどくさい目に合う前に

全部全部終わらせる

私がいっつもやる事は

相手の矛盾を正確に責める

これだけで大抵の人間は

皆 皆 折れてしまう

さてさて私の腹黒さ

まだまだ底がしれないよ

さてさて次の獲物は…？

「腹黒少女」(後書き)

自分の腹黒さにビックリしてしまったんで
男子に腹黒いと言われたので

「坂道」

もう一度だけ、あの坂道を走りきりたい

転んで膝すりむいても、気にしないから…

気づかないフリをした私がいた

面倒だと避けてた私がいた

自分の事が分からなくなつて

人の事が見れなくなつて

鈍感なフリをした私がいた

上辺だけの笑顔の私がいた

自分の事が大嫌いになつて

人の事が憎たらしく思えて

やっと本音を言えた私がいた

君にぶつかれた私がいた

でももう手遅れで

君を傷つけていて

坂道から転げ落ちた私がいた

そんな私を置いて、坂道を登って行く君が見えた

「行かないで」と泣いている私がいた

「別にいい」と強がっている私がいた

どれが自分の本音なのか分からない

嘘だらけの私がいた

気づけば傷だらけだった

転びながら、躓つまずきながら

必死に坂道を走る私がいた

遠くの方に君が居るのが見えた

走る速さが変わっていくのが分かった

転ぶと痛さが倍になった

でもそんなのは気にしない

息をあげて傷だらけの姿で

坂道を登る私が出た

そんな私に君は笑いかけた

傷だらけの自分が、色の無い世界が

変わっていくのが分かった

傷だらけの自分や、色の無い世界が

少しだけ好きになってしまった

「坂道」(後書き)

何となくこういう詩が書きたかったんです！
後悔はしていない！！

「私の妹は人間です」(前書き)

もしかしたら続き書くかもしれない

「私の妹は人間です」

皆さん驚かないで聞いてください

「私の妹は人間です」

人間なんです、私の妹。

私はこれを聞いた時、腰が抜けそうになりました

だって人間ですよ？

え？当たり前だった？

おかしい事を言いますね

私の家族は、父、母、兄、妹、私の5人ですが

妹以外は全員ロボットです

ほら、おかしいでしょ？

え？ツッコみどころが多すぎるって？

だったら説明してあげます

私の名前は「A 004」

とある科学者に作られました

私達の家族は皆、ロボットです

ある日、母が苦しみだして

口からオイルを大量に吐きました

しばらく苦しんだ後、出てきたのが妹です

そして妹は人間。

私達は驚きました

それから15年が経ちました

私達はロボットなので何も変わることはありません

ですが妹は大きくなりました。

顔は…まあ整っているのですが、問題は性格です

なぜだか、私達を避けるのです

「頭おかしいでしょ!？」と怒鳴られ、ショックで

父は少しさびてしまいました

妹は何を言っているのでしょうか

私達から見れば、珍しいのは妹です

急に泣き出すし、急に笑い出す

これが感情と言う物なのでしょうが

人間は面倒ですね

私はこれから、人間を研究しようと思います

皆さん、私の研究日記

興味があるなら見てください ただしロボットに限る

「私の妹は人間です」(後書き)

思いつきで書いた!

後悔はしていない!

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4357y/>

ときどきまじめな水姫の詩集

2011年11月20日19時50分発行